

作業療法室だより(2)

平成 19 年3月

今回も、福祉用具を紹介します。前回紹介したものが、食事に関する福祉用具でしたので、今回は“爪きり”、“靴下はき”といった利用する人が少し限られてくる物を紹介します。

爪きり(1)



こちらは、指でつまむ動作が難しい人が使用できるようになっています。手のひら全体で台を押すことで爪が切れられるようになっています。

爪きり(2)



こちらは、片方の手でつまむ動作も押す動作も難しい人が使用できるようになっています。爪を切りたい方の手を台の上ののせて、台を押すことで爪が切れられるようになっています。

靴下をはく(ソックスエイド)



シート状のやわらかいプラスチックと紐でできています。



靴下をはめたところです。



このように、紐を引っ張り上げて靴下をはきます。これは、手をつま先まで届かせるのが難しい人や、股関節を曲げるのが難しい人が靴下をはくために使用します。

靴下をめぐ(リーチャー)



手を伸ばしたり、股関節を十分に曲げての動作(物を拾う、物をつかむ、物を引っ張るなど)が難しい人が使用するのが“リーチャー”というものです。上のようにいろいろな種類の物があります。



靴下を脱ぐ時に使用するのが、上のように先が引っ掛けるタイプになっているものです。



靴下に“リーチャー”の先をひっかけて、めぎます。



足を傷ついたり、靴下をいためないように先端部分は丸くなっています。

今回紹介したものは福祉道具を扱っているところで既製品として売られています。しかし、材料があれば作成することができるので、作業療法士が作成することもあります。また、既製品では対応できないような時にも、これらの道具を改良して人が暮らしやすくなれる道具を作業療法士は作成していきたいと思っています。